



妹建第12号  
平成19年4月25日

国土交通省道路局長 様

妹背牛町長 加藤 榮



中期的な計画の作成にあたってのご意見の提出について

日頃より道路行政の推進につきましてご理解と、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、標記の件につきまして、ご依頼が御座いましたので別紙のとおり、提出いたしま

すので、よろしくお取りはからいをお願いいたします。

## 中期的な計画の作成にあたっての意見

(重点化を進める上で特に優先度の高い政策)

公共投資のあり方が問われる中で、道路に関しても取り巻く環境が大きく変わろうとしている。特に限られた財源で何が必要かを明確にして、どのように進めるかといったことがこれまで以上に重要性をもっている。量的にある程度の道路整備が進んだ現在、質への転換が求められていることや公共事業の投資額の抑制が打ち出されていること等を勘案すると、これまで整備された道路、既存ストックを地域の実状に即した維持管理を行い、既存ストックをいかに活用するかが今後の大きな課題となる。

(効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと)

道路整備が進むにつれ、その維持管理に要する費用の増加することは当然であるが、これに加え戦後、整備の遅れを取り戻すべく築造された橋梁などの構造物が、今後一斉に更新期を迎えることから、その対応が求められる。

さらに、道路管理の観点からの緊急輸送道路の整備、安全・安心の観点からの防災対策が求められているところである。

これらの観点から、今後、道路維持管理の重要性が増すことは確実で、「町民が安心して移動できる交通基盤」を提供するため、年次計画的に維持管理に要する予算確保が求められるところである。

(その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見)

そのためには、維持管理においてもコスト意識をもち、適正かつ効率的な管理水準の設定や計画的な施設管理に向けた取組が重要になる。

さらに、建設にあたっては、建設費と維持管理費のトータルコストの観点から、地域の実状・ニーズに沿い相互に調和のとれた道路構造とする柔軟な対応が求められている。

そのため、道路整備のために創設・拡充してきた道路特定財源を、既存ストックの耐用年数を延ばす上でも、維持管理費として投入すべきである。